

令和 5 年 5 月 25 日現在

機関番号：32683

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02978

研究課題名(和文) 語用論的能力向上を目指した対話場面における中国語学習者の受容ストラテジー研究

研究課題名(英文) A study of speech perception strategies in dialogue situations aimed at improving Japanese CFL learners' pragmatic competences

研究代表者

西 香織 (Nishi, Kaori)

明治学院大学・教養教育センター・教授

研究者番号：70390367

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に異文化間語用論および中間言語語用論の角度から、日本語を母語とする中国語学習者(中上級学習者)を中心に、聞き取りに問題が生じた際に用いるコミュニケーション・ストラテジーに関する以下の4項目について明らかにした。

1) 学習者の使用するコミュニケーション・ストラテジーと語用論的転移の有無。2) 対話相手との親疎・上下関係がコミュニケーション・ストラテジーの選択に与える影響。3) 学習者は聞き取れなかった情報を最終的に理解できたか。4) 中国語母語話者は学習者が使用するコミュニケーション・ストラテジーをどの程度容認するか。調査に当たっては学習者の習熟度や学習環境の別を考慮して実施した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本語は上下関係、中国語は親疎関係に敏感である傾向が強いと言われるが、特に、中級以下の中国語学習者は、相手による言葉の使い分けは難しく、上級学習者は中国語母語話者に近いストラテジーをとるものの、日本語からの転移がみられることがある。本研究により、中国語母語話者、中国語学習者の場面(人間関係)別のコミュニケーション・ストラテジーの使い分けが解明され、中国語学習者が自らコミュニケーション上の障害を取り除くために必要なストラテジーを明示することができる。また、日中対照といった視点から、中国語語用論のみならず日本語語用論の発展にも少なからず貢献できたと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study investigated the communication strategies employed by upper-intermediate Japanese CFL Learners to overcome difficulties in listening comprehension, mainly from the perspectives of intercultural pragmatics and interlanguage pragmatics. The surveys dealt with the following four aspects: (1) The communication strategies used by learners and the presence or absence of pragmatic transfers. (2) The influence of familiarity and hierarchical relationships with interaction partners on the choice of communication strategies. (3) Whether learners were able to comprehend inaudible information using these communication strategies. (4) The extent to which native Chinese speakers accept the communication strategies used by learners. In conducting these surveys, differences in learners' proficiency levels and learning environments were considered.

研究分野：外国語教育

キーワード：コミュニケーション・ストラテジー 聞き返し 中国語 中間言語語用論 第二言語習得 語用論

1. 研究開始当初の背景

「中間言語語用論」(interlanguage pragmatics) は第二言語習得研究と語用論の二つの分野に跨がる比較的新しい研究分野であり、主に第二言語学習者の語用論的知識の使用(発話行為の産出)と習得について研究が進められてきた。発話行為の産出については、言語にかかわらず依頼、謝罪、断り、ほめとほめに対する返答、感謝、不平が主な研究対象となっている(清水 2009)。しかしながら、中国語学習者を対象とした研究は現在でも数少なく、また、ほめ/感謝に対する返答や、呼びかけ語について研究している他はほとんど研究が見られないのが現状であった。

一方、「コミュニケーション・ストラテジー」(communication strategies: CS) は第二言語習得研究の主要な研究テーマの一つであり、相手の発話内容が聞き取れなかった場合など、意味交渉の手段として取られる「聞き返し」などのストラテジーについて、日本語教育では 90 年代以降、多くの研究論文が発表されている(尾崎 1992、1993、2001、トムソン木下 1994、福間 1994、猪狩 1998、1999、横須賀 2001、石田(猪狩)2002、椿 2010、堀内 2011、李 2011、福富(堀内)2012 など)。がしかし、中国語については、中間言語語用論的研究と同様、日本、中国ともにほとんど行われておらず、日本で曲他 2012、楊 2015、西 2016a、2016b など、ごくわずかの研究が見られるのみであった。

2. 研究の目的

本研究はこれまでの研究成果と合わせて、中国語についての中間言語語用論及びコミュニケーション・ストラテジー研究の基盤を作るとともに、日本語を母語とする中国語学習者の語用論的能力、コミュニケーション能力の向上にかかわる中国語の語用論的特徴の明示化を目指すものである。

本研究では、中国語母語話者との会話の中で、相手の発話の意味が分からない場合に中国語学習者がとる「聞き返し」などのコミュニケーション・ストラテジーについて、日本語を母語とする中上級中国語学習者を対象に、主に中間言語語用論の角度から分析を行う。これまでの研究で既に中上級レベルの中国語学習者は間接的説明・繰り返し要求型(相手の言葉を繰り返すエコー)・直接的説明要求型(「～はどういう意味か」)を用いる傾向が高いことが分かっているため、本研究では、話し手と聞き手との親疎・上下関係、習熟度や学習環境(CFL、CSL)の別などを考慮することにし、選択されたストラテジーについて、大きく、

- 1) その特徴、語用論的転移の有無
- 2) 対話相手との親疎・上下関係がストラテジーの選択にどのように影響するか
- 3) 学習者は聞き取れなかった相手の発話内の情報を最終的に正しく理解できたか
- 4) 中国語母語話者はそのストラテジー、表現形式をどの程度、容認するのか

の 4 項目を明らかにすることを目的としたものである。

3. 研究の方法

本研究では、中間言語語用論の角度から、「聞き返し」などのコミュニケーション・ストラテジーについて、主に中国語学習者(日本語母語話者)を対象に、話し手と聞き手との親疎・上下関係などの指標、習熟度や学習環境(CFL、CSL)の別を考慮しながら、その特徴、語用論的転移の有無、有効性などについて主に「対面インタビュー」及び「事後(フォローアップ)インタビュー」による調査を行う。さらに、母語(日本語)からの語用論的転移の有無を明らかにするため、日本語母語話者(日本語)と中国語母語話者(中国語)を対象に談話完成テスト(DCT)もを行い、最後に、学習者の産出したストラテジーについて、中国語母語話者を対象にアンケート調査を実施し容認度のチェックを行う。

4. 研究成果

【講演】西香織、「コミュニケーション重視の授業を実現するのに必要なものは何か」『中国語教員ブラッシュアップ講座 With/Post コロナ時代の中国語教育を考えよう!』大阪産業大学孔子学院、単独、2022 年

【講演】西香織、「日本漢語学習者と中国日語学習者之理解型交際策略対比研究 以求職応募面試為例」中日語言教育研究会、中国大連外国語大学(オンライン)、単独、2021 年

【口頭発表】西香織、「日本漢語学習者応答交際策略的可接受度調査分析」『CASLAR-6 2021 6th International Conference on Chinese as a Second Language Research』(Online)、単独、2021 年

【パネルディスカッション】西香織、「大学中国語教育の現状と実践、そして課題」立教大学公開講演会『複言語主義に基づいた大学教育実践への取り組み～仏独西中朝英の教育現場から』（オンライン）、単独、2021年

【学術論文】西香織、「面接場面における受容型コミュニケーション・ストラテジー 中国語学習者と母語話者を比較して」『中国語教育』第19号 査読有、単著、2021年

【口頭発表】西香織、「模擬面接における中国語学習者の受容型コミュニケーション・ストラテジー」『中国語教育学会第17回全国大会』（天理大学）、単独、2019年

【口頭発表】西香織、「日本漢語学習者在不同人際關係中的理解型交際策略研究」『第十屆亞太地區漢語教學學會國際研討會』台湾、単独、2018年

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 西香織	4. 巻 19
2. 論文標題 面接場面における受容型コミュニケーション・ストラテジー 中国語学習者と母語話者を比較して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 中国語教育	6. 最初と最後の頁 53-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西香織、鈴木慶夏	4. 巻 16
2. 論文標題 中国語初中級における比較表現の文法事項分割・分散化試案	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 国際論集	6. 最初と最後の頁 127-144
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 1件/うち国際学会 3件）

1. 発表者名 西香織
2. 発表標題 対日本漢語学習者応答交際策略的可接受度調査分析
3. 学会等名 6th International Conference on Chinese as a Second Language Research（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西香織
2. 発表標題 日本漢語学習者と中国日語学習者之理解型交際策略対比研究 - 以求職応聘面試場面為例 -
3. 学会等名 中日語言教育研討会（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西香織
2. 発表標題 模擬面接における中国語学習者の受容型コミュニケーション・ストラテジー
3. 学会等名 中国語教育学会第17回全国大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西香織
2. 発表標題 日本漢語学習者在不同人際關係中的理解型交際策略研究
3. 学会等名 第十屆亞太地區漢語教學學會國際研討會（國際學會）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西香織
2. 発表標題 初級レベルに必要な比較表現とは 文法事項の分割・分散による文型化試案
3. 学会等名 中国語教育学会第15回全国大会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------